

協働啓発資料



協働は、共通の目的を達成し、よりよい地域社会を実現するための手法です！

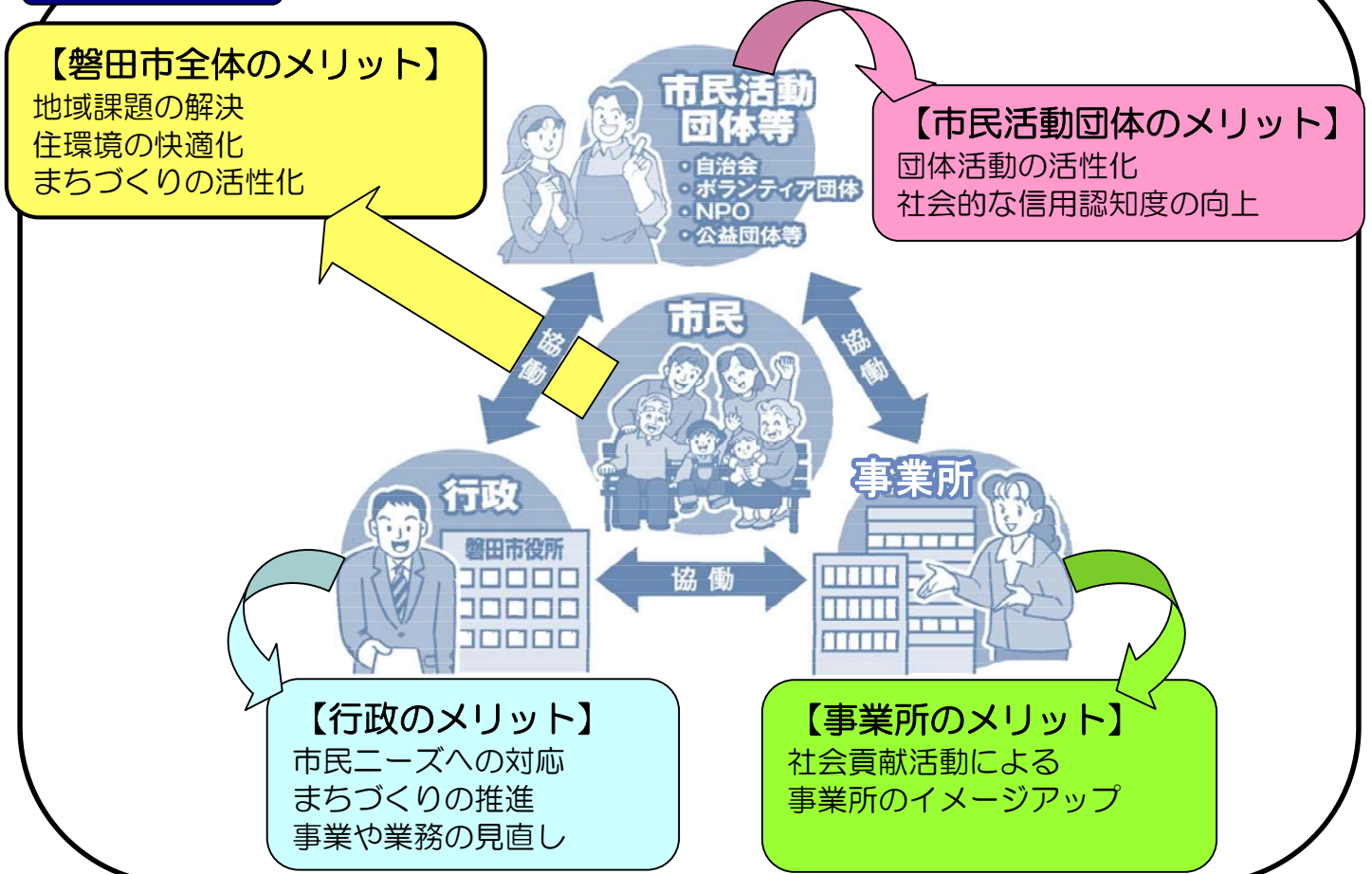
平成 25 年 3 月 磐田市市民活動推進課

協働活動とは

パートナーと協力して活動することです。主体となる市民活動団体、事業所と市がお互いの強みを生かし、弱みを補い合うことで、単独で実施するよりも効果的、効率的に活動することができます。

協働活動に参加することで得られるメリットは、一般的に次のとおりです。

イメージ



事例

自治会に荒れた空き地があった場合

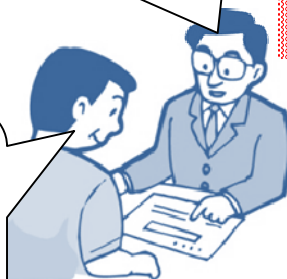
高い草が生えていると見通しが悪くなり、交通事故や不法投棄の原因に…でも、整備に必要な道具がありません。

市役所に相談すると…

市の制度を使えば
整備に必要な道具の貸し出しや、刈り取った草の処分などのサポートが受けられます。

「やりたいこと」
空き地の整備
「できること」
自治会に手伝ってくれる人がたくさんいる。
「足りないこと」
整備に必要な道具がない。

空き地が整備でき、「地域の憩いの場」ができました。



協働活動実施のステップ

ステップ1 よりよい地域を『考える』

よりよい地域を実現するために『地域課題の解決策』や『暮らしやすくなるサービス』を考えましょう。すでに実施している活動の改善でもOKです。

ステップ2 パートナーを『探す』

「ステップ1」のアイデアを実施する際に、自分達が「できないこと」や「苦手なこと」を挙げ、それを得意とする協働のパートナーを探しましょう。

パートナーが見つからない場合は、協働の窓口（市民活動センター、市民活動推進課）に相談しましょう。

パートナーの特性【○=得意】

	自主性	地域性	専門・先駆性	迅速性	公平・公益性	継続性
市民活動団体	○	○	○			
事業所	○		○	○		
市					○	○
市民(個人)	全ての協働事業に参加することができます。					

ステップ3 パートナーと『相談』

最終ページ『協働の5つのルール』を確認し、どんな手法で実現するのかを相談しましょう。【協働の手法】委託、補助、共催、後援、協力

ステップ4 協働活動の『実施』

パートナーと一緒に活動して、よりよい地域を実現しましょう。

ステップアップ 継続&発展させるために（改善）

パートナーと一緒に活動を振りかえりましょう。

そして、改善を加えてより良い協働活動を実施しましょう。

協働の5つのルール

【その1 目的・目標の共有】

パートナーと協働活動する目的、活動成果の目標を共有しましょう。

【その2 強みと弱みの確認】

お互いの強みと弱みを確認し、役割を分担しましょう。

【その3 対等な立場】

協働活動に上下関係はありません。

【その4 自主性の尊重】

パートナーとなる団体の行動原理や特性を理解し、尊重しましょう。

【その5 情報共有・公開】

協働に関する情報は、お互いに共有しましょう。また、協働で活動していることを公開し、効果を高めましょう。



「協働の手引き」ができました！

協働活動をスムーズかつ効果的に実施できるように、「協働の手引き」を作成しました。「磐田市 協働の手引き」で検索してください！

協働のまちづくりに関するお問い合わせ先

磐田市市民活動センター「のっぽ」 電話 0538-36-1890

磐田市 市民活動推進課 協働・共生社会推進グループ 0538-37-4710

協働活動の手引き（案）

- 【ステップ1】 よりよい地域を「考える」
- 【ステップ2】 協働のパートナーを「探す」
- 【ステップ3】 パートナーと活動内容を「相談」
- 【ステップ4】 協働活動の「実施」
- 【ステップ5】 協働チェック
- 【ステップ6】 もっと協働するために

平成 25 年 3 月

磐田市市民部市民活動推進課

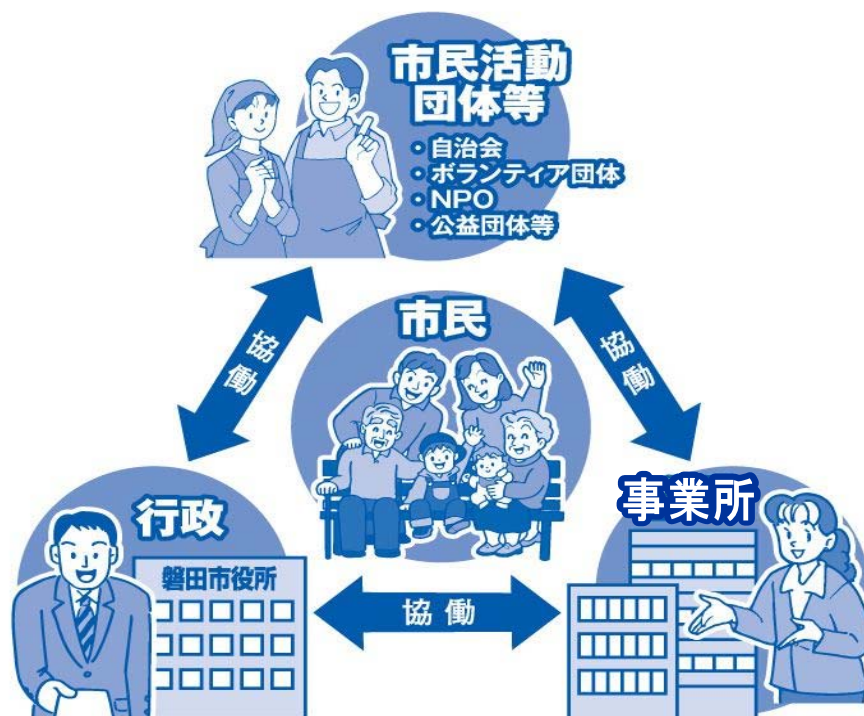
はじめに

この手引書は、市民活動団体などと事業所そして行政が協力して行う「協働のまちづくり」を進めるために作成しました。

協働することで、それぞれの得意分野を生かした効果的なまちづくりを行うことができます。

この手引書を使って、協働のパートナーとお互いにメリットのある活動を企画し、協働を楽しみましょう。

【磐田市の協働イメージ図】



協働ポイント1 『協働しなきゃいけないの?』

協働はまちづくりの方法の1つです。協働すること自体が目的ではありません。一緒に活動するメリットがないと判断された時には、協働する必要はありません。

【ステップ1】 よりよい地域を「考える」

下記の【まちづくりの基本】をふまえ、あなたの団体の得意分野を生かした『地域課題の解決策』や『暮らしやすくなるサービス』を考えましょう。例) 子育てや高齢者福祉、環境問題など

【まちづくりの基本】

- 公開性（誰でも参加できる）
- 公益性（多くの人たちのためになる）
- 非営利性（営利を目的としない）
- 非政治・宗教（政治、宗教又は選挙活動を目的としない）

1 どうすれば課題の解決やサービスを実現できると思いますか？

『目的』（何のために）

『対象(者・物)』（誰・何を）

『内容』（どうする）

2 「1」を実現するために、あなたの団体だけでは解決できないことや手伝ってほしいことを記入しましょう。

10ページの協働チェック
No.1・2をCHECK!



協働ポイント2 『協働は、いつ始めるの?』

協働は、いつでも始めることができます。他の団体と一緒に活動しようと思った時が協働の始め時です。

例えば、こんな始まりが考えられます。

1 はじめからタイプ

(1) 同じ目的を持った団体が、新たな活動を始める場合

例) 環境保護の社会貢献活動を行っている事業所が、環境保護活動をしている地元の市民活動団体と一緒に新たな活動を始める。

(2) 新たな活動を始める時に、他団体に協力を求める場合

例) 行政が子育て支援に関する事業を立ち上げる時に、専門的な知識を持つ子育て関係のNPO法人に協力を求める。

2 片方実施タイプ

(1) すでに行われている活動の主体が、他の団体に協力を依頼する場合

例) 行政が行う地域おこしに、地元の市民活動団体や事業所が協力。

(2) すでに行われている活動に、他の団体が協力を申し出る場合

例) 大学の就職セミナーに、行政が市内事業所を紹介。

3 相互実施タイプ

すでにお互いに異なった活動しており、一緒に活動することでメリットが期待できる場合

例) 産業振興イベントと農業振興イベントの同時開催。

【ステップ2】 協働のパートナーを「探す」

協働のパートナーの得意分野と協働活動に求める成果を把握して、手伝ってくれるパートナーを探しましょう。

【パートナーの得意分野（○=得意）】

パートナー	自発性	地域性	専門・先駆性	迅速性	公平・公益性	継続性
市民活動団体	○	○	○			
事業所	○		○	○		
行政					○	○

【パートナーが協働活動に求める成果】

パートナー	メリット
市民活動団体	団体活動の活性化、社会的な信用及び認知度の向上
事業所	社会貢献活動による事業所のイメージアップ
行政	市民ニーズへの対応、まちづくりの推進、事業や業務の見直し

【パートナーの探し方】

市民活動センターと市民活動推進課には、市内の市民活動団体の活動状況や事業所の社会貢献活動をまとめた一覧表があります。まずはご相談ください！

10ページの協働チェック
No.3・4をCHECK！

【ステップ3】 パートナーと活動内容を「相談」

協働のルール(P.7)を確認して、パートナーと協働活動について相談
 しましょう！

1 協働活動の内容

活動名	
目的	
活動目標	
対象(者・物)	
協働の形態	(P.7～8参照)
期間	平成 年 月 日から平成 年 月 日まで
内容	

2 役割分担

【	】の役割
【	】の役割

3 費用分担

【 】が支払う費用
【 】が支払う費用

4 協働活動のスケジュールを決めましょう

月日	実施主体	内容	備考
/			
/			
/			
/			
/			
/			

10ページの協働チェック
No.5・6をCHECK!



協働ポイント3 『協働のルール』

【その1 目的・目標の共有】

パートナーと協働活動する目的、活動成果の目標を共有しましょう。

【その2 強みと弱みの確認】

お互いの強みと弱みを確認し、役割を分担しましょう。

【その3 対等な立場】

協働活動に上下関係はありません。お互いに対等です。

【その4 自主性の尊重】

パートナー団体の行動原理や特性を理解し、尊重しましょう。

【その5 情報共有・公開】

協働に関する情報は、お互いに共有しましょう。また、協働で活動していることを公開し、効果を高めましょう。



協働ポイント4 『協働の形態』

※形態の説明については、便宜上行政主体の表現をしている部分があります。

1 企画立案段階

情報交換、意見交換

内容	市民活動団体、事業所及び行政が、懇談会や情報交換会などを行い、継続的に情報や意見を交換すること。（懇談会、情報交換会など）
効果	協働の主体それぞれが情報を持ち寄ることで、地域課題や必要なサービスが明確になる。
注意点	形式的な集まりにならないよう注意が必要。

施策・事業の企画立案

内容	行政が事業を企画立案する段階で、決定権や責任が与えられた市民活動団体や事業所から意見や提案を受けること。（委員会、協議会など）
効果	施策・事業に専門的知見を取り入れることができる。
注意点	偏った意見や提案は、取捨選択することが必要。

2 事業実施段階

委託	
内 容	行政が行うべき事業の実施を依頼する委託契約のうち、協働のルールに基づいて仕様書作成段階から市民活動団体または事業所と協力すること。（指定管理、業務委託契約など）
効 果	専門的な知識や技術に基づいた事業が実施できる。
注意点	協働のパートナーの選定基準を明確にすることやコスト削減を主たる目的としないことが必要。
補助	
内 容	公共性や公益性が高いもののうち、行政が必要と認めた活動に、費用の一部を支援すること。NPO法人や事業所の制度による補助金もある。（補助金）
効 果	行政(NPO法人、事業所)が促進したい活動分野を支援できる。
注意点	継続的な支援は、活動主体の自立や自主性を損なう恐れがある。
共催	
内 容	市民活動団体、事業所及び行政が共に実施主体となって活動を行うこと。（実行委員会など）
効 果	対等な関係で、それぞれの強みを生かし、弱みをカバーできる。
注意点	役割や責任の範囲を明確にしておく必要がある。
後援	
内 容	市民活動団体や事業所が主催する活動に、行政が「後援」として名を貸すこと。金銭や物品以外で支援する方法。行政が主催する活動に、NPO法人や事業所が後援することもある。
効 果	活動の信用性が高まり、地域社会との密接度が上がる。
注意点	後援の目的や効果を共有しなければ、単なる名義貸しになる。
協力	
内 容	市民活動団体、事業所及び行政がそれぞれの特性を生かし、一定期間継続的に協力して活動すること。（場所や道具の貸し出し、人員協力など）
効 果	委託や共催よりも柔軟な関係で協働できる。
注意点	取り組みやすい協働の形態であるが、役割分担などは文書（合意書など）で明確にしておくことが望ましい。

【ステップ4】 協働活動の「実施」

次のポイントに注意して、協働活動を実施しましょう！

1 活動実施前チェック！

- (1) 協働活動を行うメリットはありますか？ はい・いいえ
- (2) 活動の費用は適切ですか？ はい・いいえ
- (3) トラブルの対処方法は協議しましたか？ はい・いいえ



協働ポイント5

全ての答えを『はい』にしてから活動を実施しましょう。

2 活動中の注意点

(1) 進捗状況の確認

それぞれに進捗状況を把握しておき、確認を踏まえて定期的な情報交換を行いましょ。トラブルの早期発見にもつながります。

(2) 活動内容の見直し

活動の途中でも、よりよい協働の方法があれば事業計画を見直しましょ。見直しは、必ず協働のパートナーと一緒に行いましょ。



協働ポイント6

協働チェックリスト(10 ページ)の **活動結果と効果** を意識しながら活動しましょ。

10 ページの協働チェック
No.7~10 をCHECK!

【ステップ5】 協働のチェック

各段階で協働のポイントをチェック！

活動終了後に

No.11~22 を CHECK！

	No.	チェック項目	達成度
計 画	1	活動の目的は明確ですか	1 2 3 4 5
	2	自組織に不足しているものを認識できていますか	1 2 3 4 5
	3	パートナーに期待するもの(こと)は明確ですか	1 2 3 4 5
	4	パートナーのメリットを認識できていますか	1 2 3 4 5
	5	活動は目標に合致しているかどうかを考慮しましたか	1 2 3 4 5
	6	活動の対象(者・物)を把握していますか	1 2 3 4 5
実 施	7	活動の進捗を把握できていますか	1 2 3 4 5
	8	十分な危機管理を行っていますか	1 2 3 4 5
	9	お互いに協働のプロセスを楽しめていますか	1 2 3 4 5
	10	パートナーは十分に役割分担を果たしていますか	1 2 3 4 5
活 動 結 果	11	当初の目的は達成できましたか	1 2 3 4 5
	12	それぞれのメリットに合致しましたか	1 2 3 4 5
	13	お互いに不足しているものを補い合うことができましたか	1 2 3 4 5
	14	それぞれの団体が成長できましたか	1 2 3 4 5
	15	新たなネットワークをつくることができましたか	1 2 3 4 5
	16	この活動を今後も続けたいと思いますか	1 2 3 4 5
活 動 効 果	17	対象(者・物)に満足を与えられたと思いますか	1 2 3 4 5
	18	地域や社会に新たな「気づき」を与えられましたか	1 2 3 4 5
	19	第三者による評価(メディアによる紹介など)を得ましたか	1 2 3 4 5
	20	新たな発展の可能性を見つけられましたか	1 2 3 4 5
満 足	21	あなたは、この活動に満足していますか	1 2 3 4 5
	22	パートナーは、この活動に満足していますか	1 2 3 4 5

【協働チェックリスト集計】

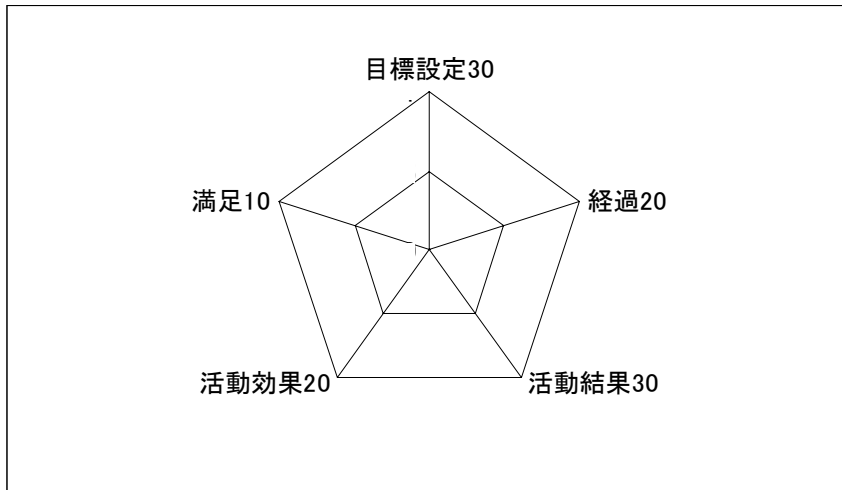
協働チェックリストの点数を計算して完成させましょう

目標設定	経 過	活動結果	活動効果	満 足
/30	/20	/30	/20	/10

【ステップ6】 もっと協働するために

1 レーダーチャート作成

【ステップ5】 協働チェックリストの点数を記入して、レーダーチャートを完成させましょう。



2 課題

協働活動での課題を記入しましょう。

3 今後の展開

パートナーと話し合い、活動の今後について考えてみましょう。

4 協働活動PR

磐田市が作成している『協働の事例集』に、あなたの協働活動を掲載しませんか？詳しくは下記にお問い合わせください。

協働のまちづくりに関する問い合わせ先

磐田市市民活動センター「のっぽ」

電話 0538-36-1890

磐田市市民活動推進課 協働・共生社会推進グループ

電話 0538-37-4710